

該当であり、小児期、成人期ともに多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については、不注意症状の発症が4歳、多動性・衝動性症状の発症が3歳であり、判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では、不注意症状では小児期、成人期ともに、多動性・衝動性症状では、小児期のみ基準を満たしていた。

D. 障害 (impairment) では、小児期、成人期ともに4という判断であり、基準を満たしていた。

E. 診断基準 (除外診断) では、考慮すべき別の疾患がないため、基準を満たしていた。

以上から、小児期 ADHD の診断基準を満たしており、サブタイプとしては、多動性・衝動性症状 (A) を満たさないことから、不注意優勢型と判断される。同様に、成人期 ADHD の診断基準を満たしているものの、サブタイプとしては、多動性・衝動性の診断基準 (A) を満たしていなかったことから不注意優勢型と判断される。

Y. H.さんの CAARS の結果を Table 6 に示した。自己評定では、A. Inattention / Memory problems, C. Impulsivity / Emotional lability, D. Problems with self-concept, E. DSM-IV Inattentive symptoms, H. ADHD Index が平均値を大きく上回っており、不注意症状、衝動性症状、自己評価において特に困難を抱えていることが示唆される。

一方、観察者評定では、D. Problems with self-concept においては平均を大きく上回る値であり、自己評価と一致する結果であったものの、その他の下位尺度においては平均値をやや上回るか、あるいは平均値を下回るものがあり、観察者 (親) の視点からはそれほど症状が顕著ではないことが示唆される。

最後に、Y. H.さんの Inconsistency Index は、自己評定で0、観察者評定で7であり、自己評定ではかなり信頼できるものであるのに対して、観察者評定では基準値である8に近いのでやや注意を要するかもしれない。

6) ID=8 A. M.さん (女性, 19歳)

ID=8 A. M.さんは、19歳の女性である。

A. 症状の判断基準においては、不注意症状は小児期においては9項目、成人期においては7項目が該当していた。多動性・衝動性症状においては、小児期では3項目、成人期では4項目のみの該当であり、小児期、成人期ともに多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については、不注意症状の発症が5歳、多動性・衝動性症状の発症が3歳であり、判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では、不注意症状では小児期、成人期ともに、多動性・衝動性症状では、小児期のみ基準を満たしていた。

Table 6 ID=6 Y. H.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Long Formの得点

デモグラフィック データ		下位尺度	粗点		T-スコア	
			自己評定	観察者評定	自己評定	観察者評定
イニシャル	Y. H.	A. Inattention / Memory problems	30	16	75	56
性別	男	B. Hyperactivity / Restlessness	22	6	57	39
年齢	21歳	C. Impulsivity / Emotional lability	27	14	71	53
カテゴリー	M1 (男性・ 18~29歳)	D. Problems with self-concept	18	17	77	76
観察者	親	E. DSM-IV Inattentive symptoms	23	6	90	46
		F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms	11	3	59	40
		G. DSM-IV ADHD symptoms Total	34	9	83	43
		H. ADHD Index	30	15	77	56
		Inconsistency Index	0	7		

D. 障害 (impairment) では、小児期、成人期ともに4という判断であり、基準を満たしていた。

E. 診断基準 (除外診断) では、考慮すべき別の疾患がないため、基準を満たしていた。

以上から、小児期 ADHD の診断基準を満たしており、サブタイプとしては、多動性・衝動性症状 (A) を満たさないことから、不注意優勢型と判断される。同様に、成人期 ADHD の診断基準を満たしているものの、サブタイプとしては、多動性・衝動性の診断基準 (A) を満たしていなかったことから不注意優勢型と判断される。

A. M.さんのCAARSの結果をTable 7に示した。自己評価では、A. Inattention / Memory problems, C. Impulsivity / Emotional lability, E. DSM-IV Inattentive symptoms, F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms, H. ADHD Index において平均値を大きく上回っており、不注意症状、多動性症状、衝動性症状、自己評価、において特に困難を抱えていることが示唆される。その他の下位尺度においてもいずれも平均値を上回っており、全ての症状領域において困難を抱えているといえる。

観察者評価では、A. Inattention / Memory problems, C. Impulsivity / Emotional lability, D. Problems with self-concept, E. DSM-IV Inattentive symptoms, H. ADHD Index において平均を大きく上回る値であり、自己評価と一致す

る結果であった。その他の下位尺度においても同様に平均値を上回っており、観察者 (親) の視点からも症状が顕著であることが示唆される。

最後に、A. M.さんの Inconsistency Index は、自己評価で7、観察者評価で5であり、観察者評価では信頼できるものの、自己評価では基準値である8に近いことや注意を要するかもしれない。

7)ID=3 K. H.さん (男性, 24歳)

ID=3 K. H.さんは、24歳の男性である。

A. 症状の判断基準においては、不注意症状は小児期においては1項目のみの該当、成人期においては該当なしであり、小児期、成人期ともに不注意症状の判断基準をみたしていなかった。多動性・衝動性症状においては、小児期では5項目、成人期では3項目のみの該当であり、小児期、成人期ともに多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については、不注意症状の発症は不明、多動性・衝動性症状の発症が3歳であり、判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では、不注意症状では小児期、成人期ともに基準を満たさず、多動性・衝動性症状では、小児期、成人期ともに基準を満たしていた。

D. 障害 (impairment) では、小児期、成人期ともに2という判断であり、基準を満たしていな

Table 7 ID=8 A. M.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Long Formの得点

デモグラフィック データ	下位尺度	粗点		T-スコア		
		自己評価	観察者評価	自己評価	観察者評価	
イニシャル	A. M.	A. Inattention / Memory problems	28	31	77	81
性別	女	B. Hyperactivity / Restlessness	25	24	66	68
年齢	19歳	C. Impulsivity / Emotional lability	31	29	82	75
カテゴリー	F1 (女性・ 18~29歳)	D. Problems with self-concept	11	15	59	72
観察者	親	E. DSM-IV Inattentive symptoms	19	21	76	74
		F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms	26	14	88	62
		G. DSM-IV ADHD symptoms Total	45	35	87	73
		H. ADHD Index	32	28	85	82
		Inconsistency Index	7	5		

かった。

E. 診断基準（除外診断）では、考慮すべき別の疾患がないため、基準を満たしていた。

以上から、小児期 ADHD、成人期 ADHD ともに診断基準を満たしていなかった。

K. H.さんの CAARS の結果を Table 8 に示した。自己評定では、D. Problems with self-concept, E. DSM-IV Inattentive symptoms, H. ADHD Index において平均値を上回っており、不注意症状と自己評価、において困難を抱えていることが示唆される。しかし、その他の下位尺度においては、平均値付近の値であり、それほど症状が顕著でないことが示唆された。

観察者評定では、D. Problems with self-concept, E. DSM-IV Inattentive symptoms, H. ADHD Index において平均を上回る値であり、自己評価と一致する結果であった。全般的に値がそれほど高くないために、症状を示すものの、それほど顕著な困難を抱えているわけではないのかもしれない。

最後に、Y. K.さんの Inconsistency Index は、自己評定で 6、観察者評定で 9 であり、自己評定については信頼できるものの、観察者評定では基準値の 8 を超えており、解釈には注意が必要であるといえる。

8)ID=2 A. S.さん（女性、21 歳）

ID=2 A. S.さんは、21 歳の女性である。

A. 症状の判断基準においては、不注意症状は小児期においては 3 項目のみの該当、成人期においては 2 項目のみの該当であり、小児期、成人期ともに不注意症状の判断基準をみたしていなかった。多動性・衝動性症状においては、小児期、成人期ともに 4 項目の該当であり、小児期、成人期ともに多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については、不注意症状、多動性・衝動性症状ともに発症が 4 歳であり、判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では、不注意症状、多動性・衝動性症状ともに、小児期、成人期両方で基準を満たしていた。

D. 障害（impairment）では、小児期で 3、成人期では 4 という判断であり、基準を満たしていた。

E. 診断基準（除外診断）では、考慮すべき別の疾患として PDD-NOS（特定不能の広汎性発達障害）が挙げられているため、基準を満たしていなかった。

以上から、小児期 ADHD、成人期 ADHD ともに診断基準を満たしていなかった。

A. S.さんの CAARS の結果を Table 9 に示した。

Table 8 ID=3 K. H.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Long Formの得点

デモグラフィック データ		下位尺度	粗点		T-スコア	
			自己評定	観察者評定	自己評定	観察者評定
イニシャル	K. H.	A. Inattention / Memory problems	14	18	51	59
性別	男	B. Hyperactivity / Restlessness	13	16	45	54
年齢	24	C. Impulsivity / Emotional lability	17	17	56	56
カテゴリー	M1（男性・ 18～29歳）	D. Problems with self-concept	13	14	65	69
観察者	親	E. DSM-IV Inattentive symptoms	11	14	64	61
		F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms	10	11	56	56
		G. DSM-IV ADHD symptoms Total	21	25	63	60
		H. ADHD Index	19	18	60	60
		Inconsistency Index	6	9※		

※：回答にムラがあり、得点の解釈に注意する必要あり

Table 9 ID=2 A. S.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Long Formの得点

デモグラフィック データ		下位尺度	粗点		T-スコア	
			自己評定	観察者評定	自己評定	観察者評定
イニシャル	A. S.	A. Inattention / Memory problems	27	13	76	55
性別	女	B. Hyperactivity / Restlessness	26	13	67	52
年齢	21歳	C. Impulsivity / Emotional lability	29	31	79	77
カテゴリー	F1 (女性・ 18~29歳)	D. Problems with self-concept	11	14	59	70
観察者	担当医	E. DSM-IV Inattentive symptoms	12	12	60	59
		F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms	19	9	73	54
		G. DSM-IV ADHD symptoms Total	31	21	69	58
		H. ADHD Index	20	21	65	69
		Inconsistency Index	9※	10※		

※：回答にムラがあり，得点の解釈に注意する必要あり

自己評定では，A. Inattention / Memory problems, C. Impulsivity / Emotional lability, F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms において特に高い得点を示していたが，他の下位尺度についても，いずれも平均値を上回っており，多くの困難を抱えていることが示唆された。

観察者評定では，C. Impulsivity / Emotional lability, D. Problems with self-concept, H. ADHD Index において特に高い値を示していた。観察者（担当医）の視点からは，顕著な症状とそうでない症状があるということが示唆される。

最後に，A. S.さんの Inconsistency Index は，自己評定で9，観察者評定で10であり，自己評定，観察者評定ともに基準値の8を超えており，解釈には注意が必要であるといえる。

9)ID=9 I. O.さん（男性，34歳）

ID=9 I. O.さんは，34歳の男性である。

A. 症状の判断基準においては，不注意症状は小児期，成人期ともに8項目が該当していた。多

動性・衝動性症状においては，小児期，成人期ともに3項目のみの該当であり，多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については，不注意症状の発症，多動性・衝動性症状ともに発症が3歳であり，判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では，不注意症状，多動性・衝動性症状ともに，小児期，成人期両方とも基準を満たしていた。

D. 障害 (impairment) では，小児期，成人期ともに4という判断であり，基準を満たしていた。

E. 診断基準（除外診断）では，考慮すべき別の疾患がないため，基準を満たしていた。

以上から，小児期 ADHD の診断基準を満たしており，サブタイプとしては，多動性・衝動性症状 (A) を満たさないことから，不注意優勢型と判断される。同様に，成人期 ADHD の診断基準を満たしているものの，サブタイプとしては，多動性・衝動性の診断基準 (A) を満たしていなかったことから不注意優勢型と判断される。

Table 10 ID=9 I. O.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Screening Formの得点

デモグラフィック データ		下位尺度	粗点		T-スコア	
			自己評定	観察者評定	自己評定	観察者評定
イニシャル	I. O.	E. DSM-IV Inattentive symptoms		20		72
性別	男	F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms		4		42
年齢	34	G. DSM-IV ADHD symptoms Total		24		59
カテゴリー	M2 (男性・ 30~39歳)	H. ADHD Index		25		73
観察者	担当医					

I. O.さんのCAARSの結果をTable 10に示した。なお、I. O.さんは、CAARSのscreening versionに回答してもらったため、これまで検討してきた調査協力者の場合とは扱う下位尺度の数が少ない。また、自己評定はなく、観察者評定のみの情報である。

I. O.さんの観察者評定（担当医）は、E. DSM-IV Inattentive symptomsとH. ADHD Indexにおいて平均を大きく上回る値であるのに対して、F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptomsにおいては平均値よりも下回っていた。したがって、多動性・衝動性症状は顕著でなく、不注意症状において特に困難を抱えていることが示唆された。これは、I. O.さんのCAADIDの診断結果が不注意優勢型であったことと一致している。

10)ID=10 M. K.さん（女性、32歳）

ID=10 M. K.さんは、32歳の女性である。

A. 症状の判断基準においては、不注意症状は小児期で9項目、成人期で7項目が該当していた。多動性・衝動性症状においては、小児期、成人期ともに2項目のみの該当であり、多動性・衝動性の判断基準は満たさなかった。

B. 発症年齢については、不注意症状の発症、多動性・衝動性症状ともに発症が6～7歳であり、判断基準を満たしていた。

C. 症状の広汎性では、不注意症状、多動性・衝動性症状ともに、小児期、成人期両方とも基準

を満たしていた。

D. 障害（impairment）では、小児期、成人期ともに4という判断であり、基準を満たしていた。

E. 診断基準（除外診断）では、考慮すべき別の疾患がないため、基準を満たしていた。

以上から、小児期ADHDの診断基準を満たしており、サブタイプとしては、多動性・衝動性症状（A）を満たさないことから、不注意優勢型と判断される。同様に、成人期ADHDの診断基準を満たしているものの、サブタイプとしては、多動性・衝動性の診断基準（A）を満たしていなかったことから不注意優勢型と判断される。

M. K.さんのCAARSの結果をTable 11に示した。なお、M. K.さんは、CAARSのscreening versionに回答してもらったため、これまで検討してきた調査協力者の場合とは扱う下位尺度の数が少ない。

自己評定は、全ての下位尺度において平均値を上回っていた。特に、E. DSM-IV Inattentive symptomsとH. ADHD Indexにおいて高い値であった。

観察者評定（担当医）でも、E. DSM-IV Inattentive symptomsとH. ADHD Indexにおいて高い値であり、自己評定と一致する結果であった。よって、自己の視点からも、観察者（担当医）の視点からも不注意症状が顕著であった。また、I. O.さんのCAADIDの診断結果が不注意優勢型であったことと一致している。

Table 11 ID=10 M. K.さんのデモグラフィックデータおよびCAARS-Screening Formの得点

デモグラフィック データ		下位尺度	粗点		T-スコア	
			自己評定	観察者評定	自己評定	観察者評定
イニシャル	M. K.	E. DSM-IV Inattentive symptoms	24	24	87	79
性別	女	F. DSM-IV Hyperactive-Impulsiveness symptoms	14	3	61	42
年齢	32歳	G. DSM-IV ADHD symptoms Total	38	27	78	65
カテゴリ	F2（女性・ 30～39歳）	H. ADHD Index	30	27	85	81
観察者	担当医					

D. 考察

本研究では、10名の患者の協力を得てCAADIDおよびCAARSの実施した。10名中9名が成人期ADHDの診断基準を満たしていた。

CAADIDは、実際の診断であるPart IIに入る前に、Part Iで患者の家族構成、成育歴、治療歴などについて詳細に検討を行うため、診断だけでなく、治療という面でも重要な情報を効率よく収集することが可能であり、有用性が高いと考えられる。

CAARSは、成人期ADHDの症状について、多くの情報を得られるツールであるといえる。CAARSのLong Formの得点を比較する際に、因子分析にもとづく下位尺度に着目すると、B. Hyperactivity / Restlessnessの多動性症状に関する下位尺度よりも、A. Inattention / Memory problemsの不注意症状に関する下位尺度の方が得点が高い傾向がみられた。しかしながら、DSM-IV Symptom scalesに着目した場合には、このような傾向がみられず、むしろ逆転している場合もみられた。これについては、データを増やして詳細に検討を行う必要がある。

自己評定と観察者評定を比較した場合には、自己評定の方が高い得点を示す場合があったり、逆に観察者評定の方が高い得点を示す場合があったりと、ケースによって異っており、顕著な傾向は見いだされなかった。

成人期ADHDの診断基準を満たさなかった1名(ID=2 A. S.さん)については、PDD-NOSという診断がつき、成人期ADHDの診断基準を満たしていなかった。しかしながら、A. S.さんのCAARSの得点をみると、いずれの下位尺度も平均値を大きく上回っていた。このことから、成人期ADHDの診断を満たさなくとも、症状を量的に把握した場合には高い得点を示す場合がある

ことを示している。

今回は10ケースについての予備的な検討であるために、統計的な検定はできなかった。CAARSの自己評定と観察者評定についてより詳細に検討するためには、さらに多くのデータが必要である

今後の検討課題としては、CAADIDの信頼性の検討と、CAARSの標準化を行うことが挙げられる。そのためには、両尺度を多くの対象者に実施する必要がある。今回のような成人期ADHDを疑われる臨床群だけでなく、精神疾患をもたない定型群に対しても、性別(男女)、年齢帯(4グループ)ごとに実施する必要がある。

E. 結論

CAADIDおよびCAARSを使用して予備的な検討を行った結果、二つの評価尺度は成人期ADHDの診断や、症状の量的把握を行う上で有効なアセスメントツールであることが明らかになった。

引用文献

- Conners, C. K., Erhardt, D., & Sparrow, D., (1999). CAARS Adult ADHD Rating Scales. New York: Multi-Health Systems.
- Epstein, J., Johnson, D. E., & Conners, C. K. (2001). Conners' Adult ADHD Diagnostic Interview for DSM-IV (CAADID). New York: Multi-Health Systems.

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

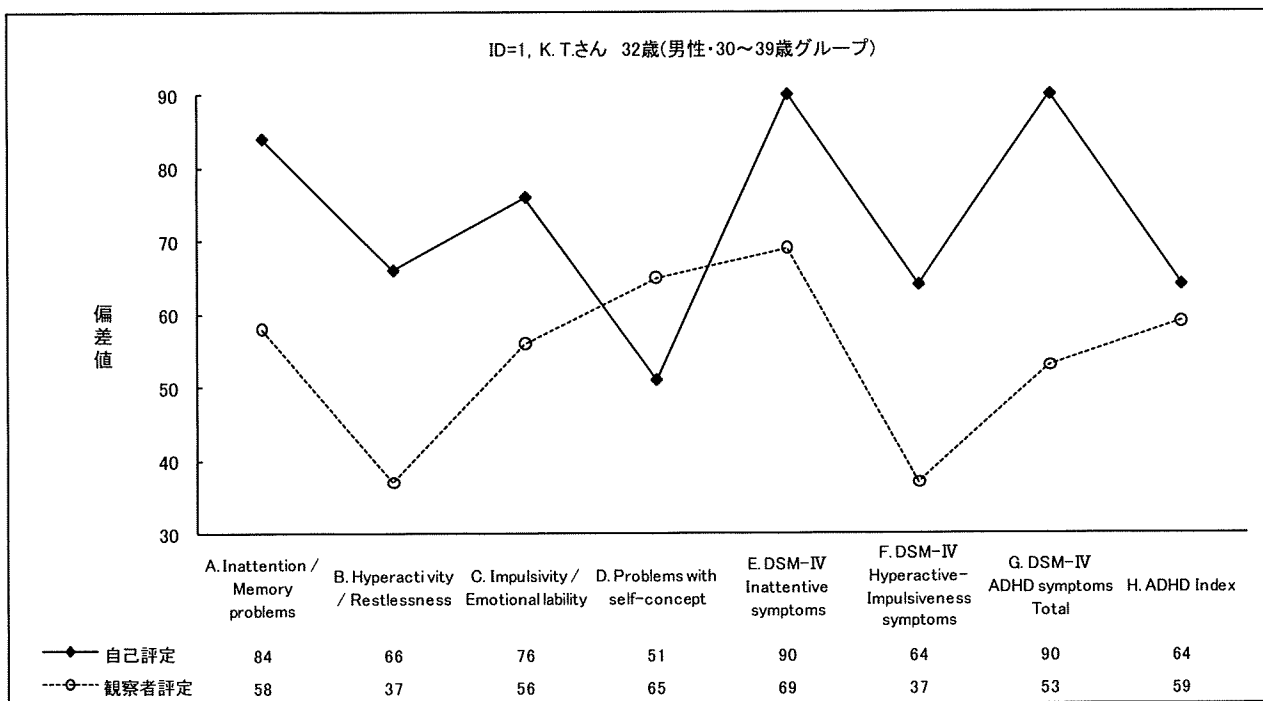
3. その他

特になし

A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	Y	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	N
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	Y	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	Y	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	Y	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	8	合計	8
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	N	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	Y	C-HI-(b)	Y
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	N	C-HI-(c)	Y
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	Y
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	Y	C-HI-(e)	Y
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	Y	C-HI-(f)	Y
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	Y	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	Y	C-HI-(h)	Y
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	Y	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	6	合計	9
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age		5 歳	
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age		6 歳	
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	Y
仕事	A-In-W	Y		
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S		C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W	Y		
家	A-HI-H	Y	C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A	Y	C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える) <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				

ID=1 K. T.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

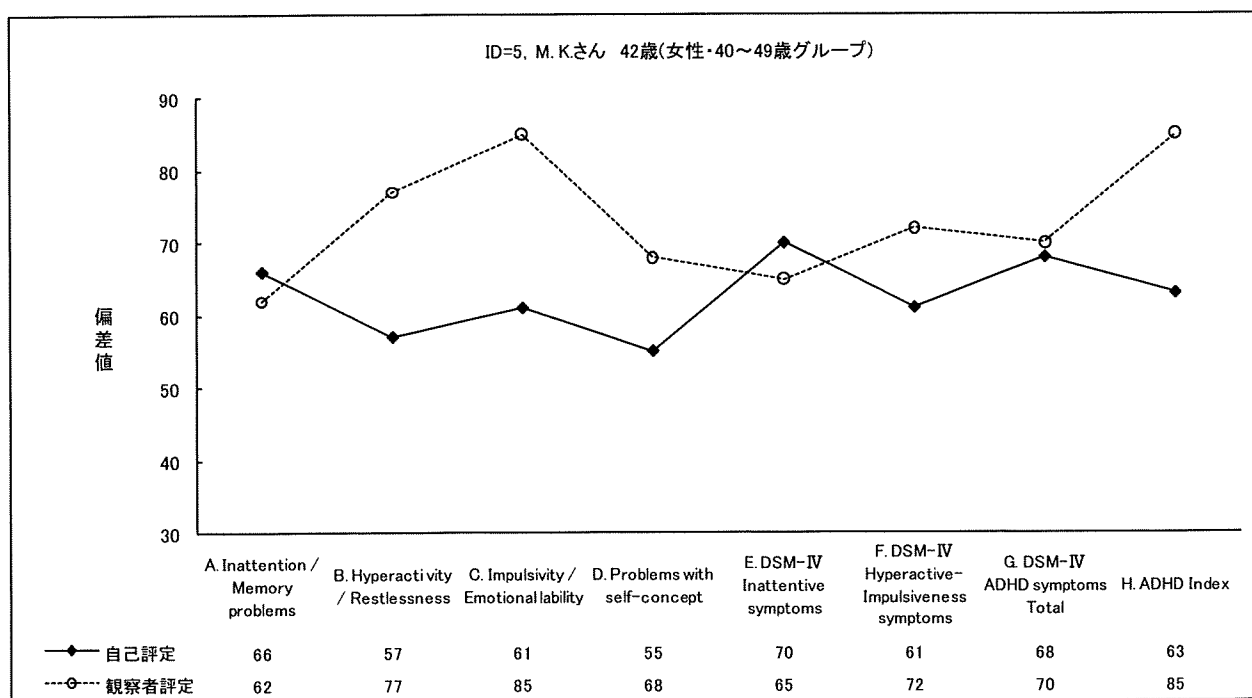
D.障害(impairment)				
症状による障害	A-imp	4	C-imp	4
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	Y N		Y N	
E.診断基準				
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	Y N		Y N	
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IVコード:			
	DSM-IV疾患:			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">小児期のAD/HD評価</div>				
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか? はい いいえ				
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
不注意優勢型	多動性/衝動性優勢型	混合型		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">成人期のAD/HD評価</div>				
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか? はい いいえ				
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
不注意優勢型	多動性/衝動性優勢型	混合型		



A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	Y	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	N
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	Y	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	Y	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	Y	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	8	合計	8
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	N	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	Y	C-HI-(b)	Y
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	N	C-HI-(c)	Y
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	Y
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	Y	C-HI-(e)	Y
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	Y	C-HI-(f)	Y
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	Y	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	Y	C-HI-(h)	Y
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	Y	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	6	合計	9
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age	5 歳		
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age	6 歳		
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	Y
仕事	A-In-W	Y		
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S		C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W	Y		
家	A-HI-H	Y	C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A	Y	C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える) <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				

ID=5 M. K.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

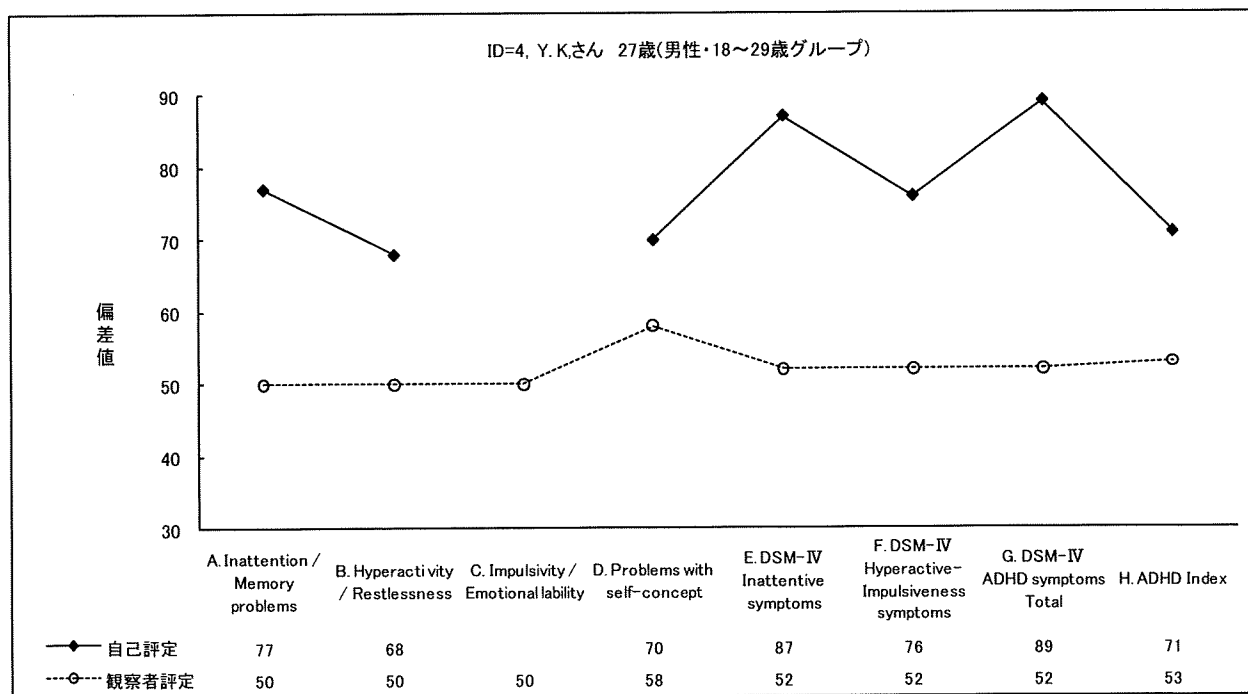
D.障害(impairment)				
症状による障害	A-Imp	4	G-Imp	4
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
E.診断基準				
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IV疾患:			
小児期のAD/HD評価				
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input checked="" type="radio"/> 混合型		
成人期のAD/HD評価				
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input checked="" type="radio"/> 混合型		



A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	N	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	Y	C-In-(c)	Y
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	N	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	N	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	Y	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	6	合計	9
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	Y	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	Y	C-HI-(b)	Y
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	Y	C-HI-(c)	Y
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	Y
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	Y	C-HI-(e)	Y
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	N	C-HI-(f)	Y
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	N	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	N	C-HI-(h)	N
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	Y	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	5	合計	8
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age		6 歳	
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age		6 歳	
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか?				
	<input checked="" type="radio"/> Y		<input type="radio"/> N	
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	Y
仕事	A-In-W	Y		
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S	Y	C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W	Y		
家	A-HI-H	Y	C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A	Y	C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	4	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える)				
	<input checked="" type="radio"/> Y		<input type="radio"/> N	

ID=4 Y. K.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

D.障害(impairment)				
症状による障害	A-Imp	4	C-Imp	4
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
E.診断基準				
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IVコード: DSM-IV疾患:			
小児期のAD/HD評価				
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input checked="" type="radio"/> 混合型		
成人期のAD/HD評価				
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input type="radio"/> 混合型		

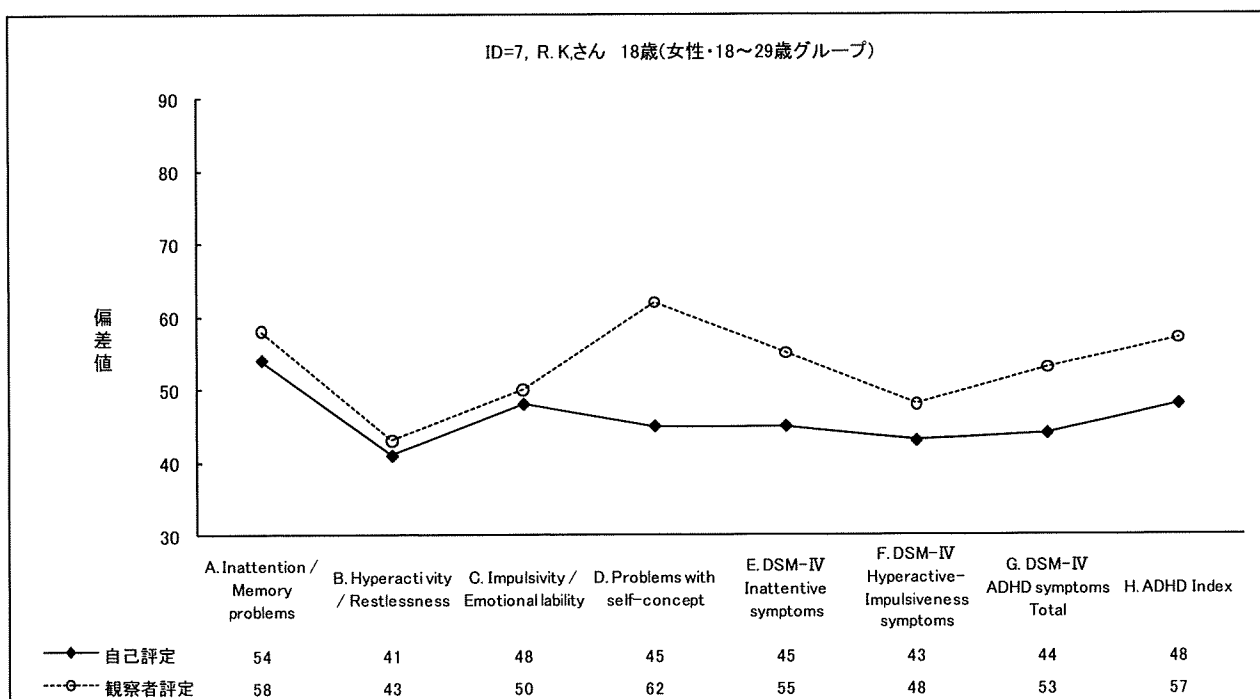


ID=7 R. K.さんのサマリーシート, スコアリングアルゴリズム

A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	N	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	Y
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	Y	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	Y	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	N	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	6	合計	9
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	<input checked="" type="radio"/>	N	<input checked="" type="radio"/>	N
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそそわ動かす	A-HI-(a)	N	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	N	C-HI-(b)	Y
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	N	C-HI-(c)	N
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	Y
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	N	C-HI-(e)	N
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	N	C-HI-(f)	Y
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	N	C-HI-(g)	N
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	N	C-HI-(h)	Y
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	N	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	0	合計	6
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	Y	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	N
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age	4 歳		
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age	4 歳		
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか?				
	<input checked="" type="radio"/>	N		
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S	Y	C-In-S	Y
仕事	A-In-W			
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S		C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W			
家	A-HI-H		C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A		C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	0	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える)				
	<input checked="" type="radio"/>	N		

ID=7 R. K.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

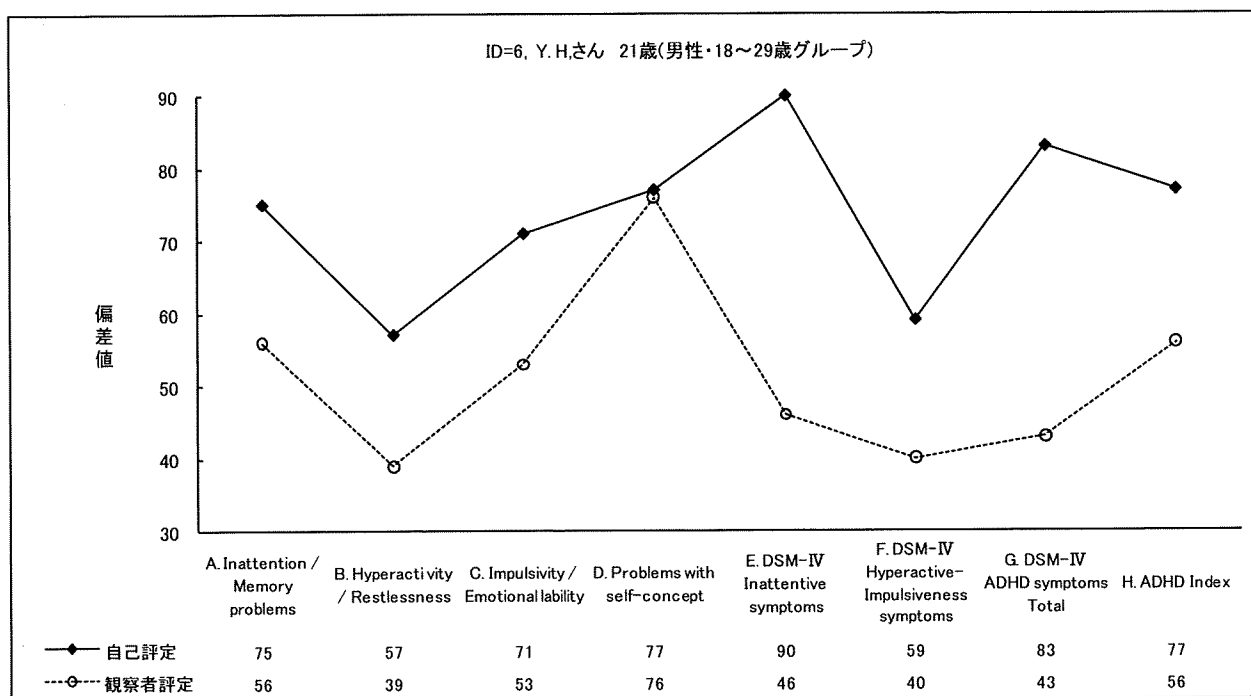
D. 障害(impairment)			
症状による障害	A-Imp	3	C-Imp 6
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	<input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N		<input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N
E. 診断基準			
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	<input type="radio"/> Y <input checked="" type="radio"/> N		<input type="radio"/> Y <input checked="" type="radio"/> N
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IVコード:		
	DSM-IV疾患:		
小児期のAD/HD評価			
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。			
<input type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型		<input checked="" type="radio"/> 混合型
成人期のAD/HD評価			
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。			
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型		<input type="radio"/> 混合型



A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	Y	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	N
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	Y	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	N	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	N	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	6	合計	8
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	N	C-HI-(a)	N
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	N	C-HI-(b)	N
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	Y	C-HI-(c)	N
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	Y
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	N	C-HI-(e)	Y
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	N	C-HI-(f)	N
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	N	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	Y	C-HI-(h)	Y
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	N	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	2	合計	5
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか? <input type="radio"/> Y <input checked="" type="radio"/> N <input type="radio"/> Y <input checked="" type="radio"/> N				
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age	4 歳		
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age	3 歳		
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか? <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	Y
仕事	A-In-W	Y		
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S	Y	C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W	N		
家	A-HI-H	Y	C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A	N	C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	2	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える) <input checked="" type="radio"/> Y <input type="radio"/> N				

ID=6 Y. H.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

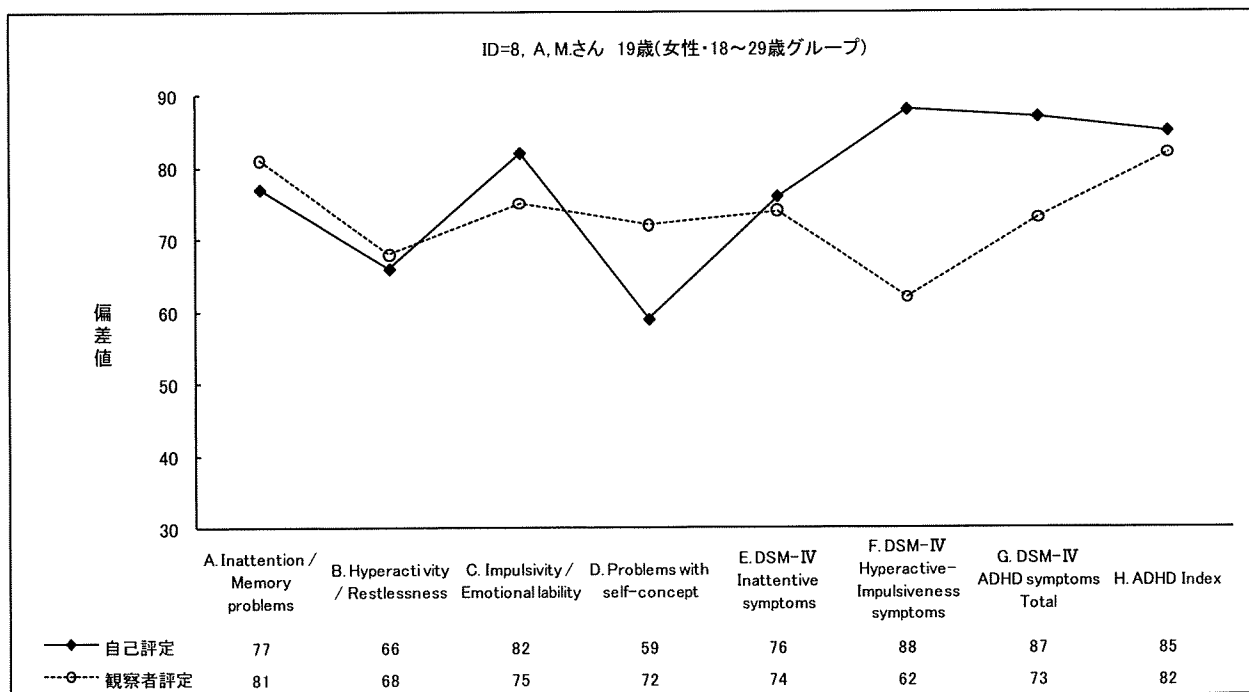
D.障害(impairment)				
症状による障害	A-Imp	4	C-Imp	4
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
E.診断基準				
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IVコード:		DSM-IV疾患:	
小児期のAD/HD評価				
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input type="radio"/> 混合型		
成人期のAD/HD評価				
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input type="radio"/> 混合型		



A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	Y	C-In-(a)	Y
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	N	C-In-(b)	Y
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	Y
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	Y	C-In-(d)	Y
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	Y	C-In-(e)	Y
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	Y	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	Y	C-In-(g)	Y
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	Y	C-In-(h)	Y
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	Y	C-In-(i)	Y
不注意症状の合計	合計	7	合計	9
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	<input checked="" type="radio"/> Y	N	<input checked="" type="radio"/> Y	N
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	Y	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	N	C-HI-(b)	N
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	Y	C-HI-(c)	N
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	N
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	N	C-HI-(e)	N
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	Y	C-HI-(f)	Y
g) 出し抜けるに答える	A-HI-(g)	Y	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	N	C-HI-(h)	N
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	N	C-HI-(i)	N
多動性/衝動性症状の合計	合計	4	合計	3
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	Y	<input checked="" type="radio"/> N	Y	<input checked="" type="radio"/> N
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age	5 歳		
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age	3 歳		
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか?				
	<input checked="" type="radio"/> Y	N		
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	Y
仕事	A-In-W	Y		
家	A-In-H	Y	C-In-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-In-A	Y	C-In-A	Y
不注意症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S		C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W	Y		
家	A-HI-H	Y	C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A	Y	C-HI-A	Y
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	3	合計	3
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える)				
	<input checked="" type="radio"/> Y	N		

ID=8 A. M.さんのサマリーシート・スコアリングアルゴリズム (続き) と CAARS グラフ

D.障害(impairment)				
症状による障害	A-Imp	4	C-Imp	4
障害の診断基準D: 障害を示していますか? (障害評価が3以上)	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N	<input checked="" type="radio"/> Y	<input type="radio"/> N
E.診断基準				
症状は、別の疾患の存在を考慮した方がより適切に説明されますか?	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N	<input type="radio"/> Y	<input checked="" type="radio"/> N
「はい」の場合、どのDSM-IV疾患ですか?	DSM-IVコード: DSM-IV疾患:			
小児期のAD/HD評価				
小児期のCAADID回答は、診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input type="radio"/> 混合型		
成人期のAD/HD評価				
成人期のCAADID回答が診断基準A、B、C、D、およびEを満たしていますか?	<input checked="" type="radio"/> はい		<input type="radio"/> いいえ	
「はい」の場合、該当するAD/HDサブタイプの1つに○を付けて下さい。				
<input checked="" type="radio"/> 不注意優勢型	<input type="radio"/> 多動性/衝動性優勢型	<input type="radio"/> 混合型		



A. 症状の判断基準				
不注意症状				
	成人期		小児期	
a) 不注意な過ち	A-In-(a)	N	C-In-(a)	N
b) 注意の持続が困難	A-In-(b)	N	C-In-(b)	N
c) 話を聞いていない	A-In-(c)	N	C-In-(c)	N
d) 指示に従わない、または最後までやり遂げない	A-In-(d)	N	C-In-(d)	N
e) 順序立てることが困難	A-In-(e)	N	C-In-(e)	N
f) 精神的努力が必要とされる作業を避ける	A-In-(f)	N	C-In-(f)	Y
g) 物をなくす	A-In-(g)	N	C-In-(g)	N
h) 気が散りやすい	A-In-(h)	N	C-In-(h)	N
i) 忘れっぽい	A-In-(i)	N	C-In-(i)	N
不注意症状の合計	合計	0	合計	1
不注意症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	Y	<input checked="" type="radio"/> N	Y	<input checked="" type="radio"/> N
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
a) 手足をそわそわ動かす	A-HI-(a)	Y	C-HI-(a)	Y
b) 座っていることが難しい	A-HI-(b)	N	C-HI-(b)	Y
c) 走り回る/落ち着きがない	A-HI-(c)	N	C-HI-(c)	N
d) 静かに活動することが難しい	A-HI-(d)	N	C-HI-(d)	N
e) 「じっとしていない」または「エンジンで動かされているように活動的」	A-HI-(e)	N	C-HI-(e)	N
f) しゃべりすぎる	A-HI-(f)	N	C-HI-(f)	N
g) 出し抜けに答える	A-HI-(g)	Y	C-HI-(g)	Y
h) 順番を待つことが困難	A-HI-(h)	Y	C-HI-(h)	Y
i) 他人を妨害し、邪魔をする	A-HI-(i)	N	C-HI-(i)	Y
多動性/衝動性症状の合計	合計	3	合計	5
多動性/衝動性症状の判断基準A: 最低6つの症状が見られますか?				
	Y	<input checked="" type="radio"/> N	Y	<input checked="" type="radio"/> N
B. 発症年齢				
不注意症状の発症	In-Age		歳	
多動性/衝動性症状の発症	HI-Age		3	歳
発症年齢の判断基準B: 不注意症状または多動性/衝動性症状のどちらかが7歳以下で発症しましたか?				
	<input checked="" type="radio"/> Y			N
C. 症状の広汎性				
不注意症状				
	成人期		小児期	
学校	A-In-S		C-In-S	
仕事	A-In-W			
家	A-In-H		C-In-H	
スポーツ活動やクラブ	A-In-A		C-In-A	
不注意症状が見られる環境の合計	合計	0	合計	0
多動性/衝動性症状				
	成人期		小児期	
学校	A-HI-S	Y	C-HI-S	Y
仕事	A-HI-W			
家	A-HI-H		C-HI-H	Y
スポーツ活動やクラブ	A-HI-A		C-HI-A	
多動性/衝動性症状が見られる環境の合計	合計	1	合計	2
広汎性の診断基準C: 症状は複数の場所で現れますか? (不注意症状または多動性/衝動性症状の合計が1を超える)				
	<input checked="" type="radio"/> Y			N